

家の外壁は大丈夫！？ 自分でできるチェックするポイント！



そろそろ外壁塗装するべきなのかもしれないけど、いつやれば良いのか分からない…。
住まいの適切なメンテナンス時期は分かりにくく、早すぎるタイミングで塗装を進められて損をしてしまうといったウワサを聞くことも。

しかし、外壁塗装はまだいいという言葉を受けないで、大切な我が家が傷んでしまっは大変なことになってしまう場合もあります。

新築や前回塗装から10年前後経過している方は、ぜひ今回ご紹介するチェック方法を実践してみてください。

外壁塗装タイミングのセルフチェック方法

■ひび割れていないか？

外壁材のひび割れは代表的な塗装サインの一つですが、発生状況によって深刻度が変わります。0.3ミリ以下の細かいひび割れは「ヘアークラック（髪の毛ほどの細さのヒビ）」と呼ばれます。

ヘアークラックは外壁劣化の初期症状なので緊急性はそれほど高くありませんが、放置すると進行するので塗装を検討しましょう。

明らかに太く大きなひび割れが発生している場合は、外壁や下地に何らかのトラブルが起きている可能性があります。進行すると重大なダメージになり費用が余計に掛かる可能性もあるので、早めにプロに点検してもらいましょう。



■カビやコケが生えていないか？

日の当たりにくい場所にカビやコケが見つかったら、塗膜が劣化しているサインです。

外壁塗料が劣化すると防汚機能が低下してきて、カビや汚れが付着しやすくなり、だんだん広がっていきます。

カビやコケが生えている状態は防水性能も低下しているので、塗装タイミングが来ていると考えましょう。



■チョーキングが起きていないか？

外壁に塗られた塗料は雨風や紫外線で劣化し、年数が経つにつれて原材料の粉に戻る「チョーキング現象」が発生します。

外壁を手で軽く触って粉が付いた場合、チョーキングが発生して防水性が低下しているサインとなります。

チョーキングはすぐに雨漏れが発生するような緊急性の高いサインではありませんが、塗装適正タイミングの一つの目安として覚えておきましょう。



■南面、西面が色褪せていないか？

長時間強い日差しが当たる南側・西側の外壁は劣化が早い傾向があるため、北・東との色の差をチェックしてみてください。

南面、西面の方が色あせが進行している場合、前述したチョーキング現象が強めに発生している可能性があります。

特にグレーやブラックなど濃いカラーだと色あせが分かりやすいので、一つの目安にしてみてください。



■外壁に凸凹ができていないか？

サイディング・モルタル壁などの材質でも、外壁の表面が凸凹していたら塗装orメンテナンスのサインです。

窯業系サイディングは素材が湿気を吸って反りが出ているケースもありますが、雨漏れから下地が腐って凸凹している可能性も考えられます。

正面だけでなく、外壁をいろいろな角度から見て凸凹の有無をチェックしてみてください。



■クギが浮いてきていないか？

サイディング壁を固定しているクギが浮いている状況も、塗装タイミング目安の一つです。クギが浮くのはサイディングや下地の木材が膨張伸縮を繰り返すのが原因で、どの家でも起こり得ることです。

クギのすき間を伝って少しずつ雨が侵入することがあるため、長期間放置すると外壁材の劣化や下地の腐食につながる恐れがあります。

外壁をぐるりとチェックしてクギが浮いている箇所があったら、そろそろ塗装のタイミングと考えましょう。



外壁塗装しないとどうなるの？

■雨漏れ

外壁塗装のタイミングを逃すと防水性が低下し、ひび割れやサイディングのすき間から雨漏れが発生するリスクが高まります。

雨漏れはいきなり発生するのではなく、ちょっとした水分の侵入から徐々に広がっていくのが怖いところ。

室内に雨染みなどのサインが出ず、天井や壁裏で見えないうちに進行しているケースもあるので要注意です。



■外壁材の劣化

塗装をせず長期間放置すると、外壁材自体の劣化が進み張り替えや補修が必要になることも考えられます。例えばサイディングの塗膜が劣化すると、つなぎ目や釘穴から徐々に水を吸って膨らみやサビの原因になります。サイディングは30年前後が張り替え目安ですが、劣化が進むと早めに張り替えることになり余計なコストがかかってしまいます。



■柱などの構造材の腐食

雨漏れや外壁材の劣化は、壁の裏にある柱・梁・土台などの構造材の腐食といったトラブルにもつながります。木材は本来100年以上使える耐久性のある素材ですが、雨に濡れると腐食しボロボロになってしまいます。住まいを支える柱や梁が腐ってしまうと、本来の耐震性を発揮できず大きな地震での倒壊リスクも。



■シロアリの発生

雨で腐食した木材はシロアリの大好物となり、巣をつくって柱や土台を食べられてしまう「蟻害(ぎがい)」に発展する恐れもあります。

シロアリは一度発生するとどんどん広がっていくため、時間が経つほど被害が進行し補修費も多くかかります。



外壁塗装に適した季節はいつ？

前述した塗装タイミングのサインが出ているなら、季節にこだわらず早めに施工すべきです。

外壁塗装は一般的に気温5°C以下、湿度85%以上を避ければ施工可能とされています。つまり雪や雨といった悪天候を避ければ一年中塗装は可能です。

長雨がある梅雨や秋の時期は施工期間が伸びることもありますが、工期の余裕さえ見ておけば問題はありません。

季節を気にして工事を後回しにする方が悪影響なことも多いので、塗装時期が来たら基本的に早めの計画を立てましょう。

